

【学校教育目標】

真理と正義を愛し、勤労と責任を重んじ、創造力と自主的精神に充ち、地域と国際社会に貢献できる個性豊かで心身ともに健康な人材の育成を目指す。

【重点目標(中・長期的目標)】

「白馬にしかない」学びの創造
 ①地域と連携した全国モデルとなる学校協働運営体制を構築する。
 ②地域資源を最大限に活用し、国際的な視野を持ち地域視点で行動するグローバル人材の育成。
 ③基礎的な学力の定着と21世紀型学力の育成に向けた授業改善と授業力向上。
 ④自らの生き方を主体的に意思決定し行動できる進路指導とキャリア教育の充実。

【今年度の重点目標】

1 生徒募集に係る取組の推進
 2 個に応じた生徒支援と特色ある教育活動の推進
 ①学習・生活の両面における個に応じた丁寧な支援・指導を通じた、いじめや体罰のない安心・安全な学校づくり。
 ②地域からの提案を活用した、環境と観光、国際を軸とする探究的で多様な学びの機会の提供と生徒個々のキャリアデザイン
 の具体化支援。
 ③支援係との連携体制の一層の強化。寮生・下宿生に対する丁寧な支援・指導と地域との交流促進。
 ④地域みらい留学を通じた全国募集の促進と、地元生確保に向けた地域、地元小中学校等に対する積極的な情報発信、相互交流の強化。

◎教育活動に関するもの

評価項目	評価の観点	担当	目標・留意点(関係組織・評価方法等)	評価	達成状況と今後の課題
教育課程 教育内容	カリキュラムマネジメントに基づき実践する教育内容は、生徒の進路実現に効果的なものであったか。	教育課程委員会	進路状況、資格取得状況等の結果による。	B	3年生は自分の強みを生かし、希望する進路へ進むことができた。
	選択科目の選択群の構成並びにそれに属する科目の配置及び内容は適切であったか。			B	生徒の実情やつけたい力を考え、今年度・来年度の一部科目を変更した。引き続き実情に合わせた編成を考えていきたい。
学習指導と教育課程 各教科	思考力や想像力を伸ばし、他者の考えを理解する能力を育成できたか。自分の考えを適切に表現する能力を育成できたか。ことばに対する関心を高めることができたか。	国語科	7割以上の生徒が満足感を得たか。(授業アンケート)	B	授業アンケートにて7割以上の生徒が満足していると回答している。学力差が大きいため、生徒の能力に合わせた対応を心がけたい。
	授業編成の工夫や添削指導などを含むさまざまな補習を通して、個々に応じた基礎学力の向上を図ることができたか。また、言語能力の育成を意識し、対話(双方向)的な活動を行ったか。	数学科	7割以上の生徒が満足感を得たか。(授業アンケート)	B	授業アンケートにて7割以上の満足感を得られた
	ペアやグループでの協同学習や放課後の補習を通して、対話的な学びの実現と個々に応じた基礎学力の向上を図ることができたか。授業での言語活動を通して、外国語や異文化、他者への理解・関心を高めることができたか。	英語科	7割以上の生徒が満足感を得たか。(授業アンケート) 必要に応じて補習を実施できたか。	B	「意欲的に学習に取り組んでいる」との項目については、7割以上の肯定的な回答を得られた。「教員の授業の工夫や改善」については、7割に満たなかったため、次年度の課題とした。個別の学習後進生の成長もあり、卒業生合格者数および合格者数が前年より増加した。
	日本と世界の地理・歴史および政治経済に関する基本的事項を理解させ、地域や社会に貢献できる態度を育むための授業実践を行い、適切な振り返りを行ったか。	地歴公民科	地域の課題および地域を題材とした授業を各学年1件以上立案し、実施することができたか。授業アンケートを行い、その結果を次年度授業計画に反映させたか。	B	1学年では北アルプス学のフィールドワーク、3学年では時事問題でのフィールドワークを実施した。2学年では実施できなかったため、次年度は企画したい。白馬村観光局と連携して、白馬村の魅力を発信するプロジェクトをはじめ、地域の人と協働して地域活性化を目指すプロジェクトに協働して取り組むことができた。
	「観光」にかかわる学習活動をさらに拡充させ、より魅力的で、より教育効果の高いものとするための研究をしたか。		新規に発案した企画、または、改善を加えた企画を2件以上立案し、実施することができたか。	A	
	実験・実習の目的、操作の意味を理解させ、実験結果をグラフや表にまとめ、考察させるなどの学習活動を通して、探究的な学びの土台作りができたか。	理科	科目ごと、各単元で1回以上生徒実験を行うことができたか。	B	一部の科目を除き、各単元で1回以上の生徒実験ができた。できるだけ人数で実験を行えるよう器具の整備をおこなっていききたい。
	運動の合理的、計画的実践に主体的に取り組むことができたか。自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質、能力を高められたか。	保健体育科	7割以上の生徒が満足感を得たか。(授業アンケート)	B	主体的に行動できる生徒が見受けられるようになった。
	生徒一人ひとりの技能、技術の伸長を図ることができたか。芸術を愛好し、深く味わおうとする心情を育むことができたか。	芸術科	7割以上の生徒が満足感を得たか。(授業アンケート)	B	授業評価アンケートにて7割以上の満足感を得られた。
	生活者として生きるための知識や技術を身につけ、主体的に人生をつくれるようにワーク・実験・実習を活用した授業展開を工夫し、生徒が主体的に取り組むことができたか。	家庭科	7割以上の生徒が満足感を得たか。(授業アンケート)	B	授業評価アンケートにて7割以上の満足感を得られた。
	商業科目に興味を持たせ、基礎知識と事例・事象を通じて、社会で使える知識・技術(スキル)を身につけさせることができたか。	商業科	7割以上の生徒が満足感を得たか。(授業アンケート)	B	身近な事例を通して商業科目に関心を高める工夫を行い、レポートや演習問題、検定を通してスキルの習得を目指した。
情報を適切に収集・処理・発信するための基礎的な知識と技能の習得と情報社会の特性を理解し、情報化の影の部分に対応し、適正な活動ができる考え方や態度を身につけることができたか。	情報科	7割以上の生徒が満足感を得たか。(授業アンケート)	B	今年度も引き続き、記入式のスライドとLife is tech(自己学習ツール)を併用した学習方法を行い、概ね好評だった。来年度も導入していきたい。	

評価項目	評価の観点	担当	目標・留意点(関係組織・評価方法等)	評価	達成状況と今後の課題
教務	生徒・職員が安心感をもって取り組める環境整備を行うことができたか。	教務係	学校評価アンケートをもとに5件以上の環境整備に関する改善提案を行うことができたか。	B	学校評価アンケートをもとに生徒や保護者の疑問を解消できるよう学校側の回答をまとめたほか、職員間で課題を共有し改善に向けた取り組みを行うことができた。
	生徒に落ち着いた学習環境や機会を提供し、生徒の学力向上を図ることができたか。		対話的・協働的な授業、ICTを活用した授業の取り組みを推進し、学校評価アンケートにおいて、7割以上の生徒が満足感を得られたか。	B	授業評価アンケートにて7割以上の生徒の満足感を得られた。1人1台端末を授業内で効果的に使っているかどうか今後検証を行ってきたい。
生徒指導	基本的な生活態度が確立されたか。	生徒指導係	8割以上の生徒が達成できたか。(服装、あいさつ、マナー)	B	日常の指導、定期的な服装・あいさつ指導を通じ、規律風紀の維持に努めたが、身だしなみに関してはルーズな生徒が目立ってきた。粘りつよい対応が必要。
	健全な高校生活を送るために、豊かな人間関係の形成および問題行動の防止ができたか。		8割以上の生徒の評価が得られたか。	B	大半の生徒は落ち着いた学校生活を送れた。情報モラルに関しては課題予防的指導も必要である。
	さまざまな機会を通して、交通事故の防止ができたか。		各種指導を実施できたか。(交通安全講話、自転車乗車指導等)	B	定期的な自転車通学指導を行い、交通安全教室を実施し交通安全の啓発を行った。一方で地域からの苦情もあり、自転車運転マナーの向上が継続的な課題であるとともに、適切符制度の周知徹底が必要である。
	さまざまな機会を通して、盗難の防止ができたか。		移動や集会のたびに声かけはできたか。	B	移動教室や集会、イベント時には貴重品の管理徹底を呼び掛けるとともに、校内の巡視を行った。本年は現金盗難は見られなかったが、遺失物や物の取り違えが多く見られたため、引き続き注意を促している。
	生徒が安心、安全で学校生活を送ることができたか。		地域、保護者、生徒、職員等からの情報を活用できたか。	B	生徒個人に寄り添う指導を職員が心がけ、職員間の連携、保護者や地域からの情報を活用しながら指導に当たることができた。
進路指導	生徒の志望や適性・学力などを正確に把握し、適切な情報提供を行い、進路決定まででいねいに指導することができたか。	進路指導係	指導に対して7割以上の生徒が満足したか。(最終学年生徒へのアンケートによる)	A	担任、係を中心に粘り強く丁寧な指導することができた。アンケートの結果、3年生の7割以上が進路指導に「満足」と答えた。
	生徒の希望と意欲に応じて、早い段階から進路目標を持たせ、普段の授業に加え模試や補習などを効果的に組み合わせた学習計画に沿って、戦略的な進路指導を行うことができたか。入試について研究し、生徒を適切に指導できたか。		指導体制を整え、生徒が目標に向かって学習を進めることができたか。	A	多くの先生方の協力も得ながら、係が中心となって指導体制を構築し、各生徒の進路実現につなげることができた。また、1、2年生も進路意識を持った生徒が増えてきた。
	キャリア教育		就業体験、企業見学、職業人講話など、さまざまな学習の機会を与えることができたか。	A	1年次の就業体験が計画どおり実施することができた。また、応募前職場見学・職業人講話(社会人に学ぶ)など昨年度同様、積極的に行うことができた。
	学習指導		授業や公営塾との連携によって生徒の学習状況を把握し、学力向上を目指した取り組み(模試や7時限補習など)を推進することができたか。	A	3か月に1回程度公営塾との連絡会を持ち、指導に活かした。模試・補習を活用した生徒も増加した。
	個別指導や三者面談時の補習を通して、基礎学力の向上が図れたか。		1、2年生の7割以上がスタディサプリで配信された課題に取り組むように働きかけることができたか。	B	スタディサプリに取り組んだ生徒は、年間平均で1年生は59%、2年生は37%で、2年生の取り組みを継続させることが難しかった。課題としての取り組みませ方をもっと工夫する必要がある。
生徒会	生徒会活動	生徒会係	生徒が達成感を体験し、自信をつけるため、さまざまな場面で生徒に活躍の場を提供できたか。	B	人を引っ張ることの難しさや説明の仕方に悩む生徒もいたが、各活動を通して自信をつけ、成長する姿が見られた。
			生徒会の将来を考え、組織や活動方法の見直しを行い、必要に応じて改善できたか。	B	活動実績の点検。
	文化祭		7割以上の生徒が満足できたか。(アンケート実施)	B	タイダイ染めや乗馬企画など今までなかった規格に取り組むことができた。
	生徒の自主性		さまざまな機会を通して、生徒会活動に参加させることができたか。	B	7割以上の生徒が達成感を実感できたか。(アンケート実施)
	ボランティアや国際交流などの公共的な面にも目を向けさせることができたか。		活動実績の点検。	B	自主的な活動には個人差があるが、委員会活動や文化祭、新役員選出の機会を通して、全校生徒が参加者意識を持つよう働きかけた。
				B	個人的な活動が多く、あつせんされたボランティアに積極的に参加した。

評価項目		評価の観点	担当	目標・留意点(関係組織・評価方法等)	評価	達成状況と今後の課題
保健・環境	健康	健康についての意識付けができたか。カウンセリングやアセスを活用し、生徒の状況を把握できたか。	保健環境係	アンケートを実施し、その評価による。	B	アセスを全校で実施し、生徒の状況を把握する一端とすることができた。今後も継続して定期的全校で実施していきたい。
	環境	学校内外の安全点検を実施し、その対策と安全確保ができたか。			B	安全点検を実施し、危険な箇所はなかったが、机や椅子の木の破片が手などに刺さったという声が多かった。今後も校舎内外ともに注意して点検していきたい。
		校舎内外の美化に努め、学びの場としての環境づくりができたか。			B	生徒たちの清掃をしっかりとっている姿があった。一方で、一部の生徒は清掃にちゃんと向き合えていなかった。整美委員から声がけをしっかりとしていきたい。
生徒相談	発達に障がいを抱える生徒や不登校生徒、不安や悩みを抱える生徒へのカウンセリングや支援・相談が適切に行えたか。また、そのような生徒を支援するために教員の指導力向上を図ることができたか。	特別支援教育委員会	生徒や保護者の意向を踏まえ、スクールカウンセラー事業重点派遣校の96時間を効果的に活用し、支援できたか。個々の生徒に合った支援体制の実施と必要な見直しができたか。教職員対象の研修会を年1回以上行ったか。	B	SC派遣時間を追加していただき、生徒や保護者の意向に沿って99時間のカウンセリングを実施することができた。各種外部機関のご協力のもと、それぞれの生徒に応じた支援を実施することができた。職員研修は1回行った。	
1学年	学習面	基本的生活習慣を身につけさせるとともに、勉強の仕方を習得させ、学習意欲を向上させることができたか。	1学年	アンケートを実施し、その評価による。	B	アンケートでは、7割以上の生徒が、授業により興味関心が高まったと答えている。
	進路指導	就労体験や進路ガイダンスなど進路に関するプログラムの実施により、進路選択の幅を広げさせることができたか。			A	生徒の希望をもとに新たな企業での就労体験を計画し進路ガイダンスの形も工夫することができた。進路について考えるきっかけを作ることができた。
	総合学習 北アルプス学	総合的な探究の時間・北アルプス学において、地域の環境や歴史、産業について学び、自分なりの課題意識を持つことができたか。			B	学年全体でフィールドワークを行い、地域と連携した教育活動ができたという実感を生徒にもたせることができた。
2学年	学習面	個々の興味・関心に応じて補習等を積極的に活用し、個々に必要な知識・技術を取得することができたか。	2学年	アンケートを実施し、その評価による。	B	個々の興味関心に応じて個人で必要な学習を始めた面談などを通して自分に必要な知識、技術に考え、卒業後の進路についても具体化しつつある。
	進路指導	系統的なキャリア教育のプログラムを生かして様々な体験をすることにより、個々の具体的な進路目標を確立することができたか。			B	2度の進路ガイダンスや日頃の面談を通して2学年度末までに9割近くの生徒が具体的な進路希望を決めることができた。また、独自に自己分析や志望理由書の書き方の講座を実施し、進路実現に向けた取り組みを行っている。
	総合学習 白馬学	総合学習の時間において探究学習の推進が出来たか。また、研修旅行を通して地域の特色や観光業への理解を深めることができたか。			A	年間を通して、総合探究を実施できた。白馬フォーラムでは、全グループが発表することができた。
3学年	学習面	補習等を積極的に活用し、基礎学力の補充、入試に対応できる力をつけることができたか。	3学年	アンケートを実施し、その評価による。	B	学力受検をする生徒に対して最後まで粘り強く指導することができた。
	進路指導	第一志望を明確化し、教員との面談を重ね、生徒本人が納得できる進路の実現をサポートできたか。			B	進学就職ともに早めの対策や複数の教員からの指導を取り入れることで、第一志望先に進路が決まった生徒が8割以上を占める。
	総合学習 白馬学	総合的な探究の時間において、進路や自身のキャリアプランを考え、進路実現に向けて資格取得など必要な学習の成果を得ることができたか。			B	英語検定の取得状況が昨年度よりふるわなかったが、各自の学習は進路決定に活かすことができた。

◎学校運営に関するもの

評価項目	評価の観点	担当	目標・留意点(関係組織・評価方法等)	評価	達成状況と今後の課題		
連携	地域・保護者との連携		レポートチャンネルや学校ホームページを通して、学校の活動の様子や情報を地域に向けて積極的かつ効果的に発信し、その結果保護者や地域の方の学校への理解が深まったか。	教務係	レポートチャンネルを2か月に1回以上発行し、学校評価アンケートにおいて7割以上の保護者が本校の情報発信に対して満足感を得られたか。	B	2か月に1回のレポートチャンネルが発行できた。学校評価アンケートの結果7割以上の保護者から満足感を得られていることがわかった。今後は、学校ホームページやSNSを用いてより一層の情報発信をおこないたい。
			白馬・小谷両村をはじめとする周辺の小中学校、行政・企業や地域との連携を深めることができたか。	教務係	教員による中学校訪問、中高連携・小高連携事業を年間5回以上実施できたか。	B	地域ボランティアや探究の時間で多くの地域の方と関わる事ができた。小谷中学校との職員交流や管理職による中学校訪問を行うことができた。
			P T A行事などを通して、保護者の方との意見交換を充分に行うことができたか。	教務係(P T A担当)	7割以上の保護者が満足感を得られたか。(アンケート結果)	B	PTA理事会では、各係ごとに分かれて少人数で活発な意見交換が行われた。忌憚ない意見も多く、風通しの良い雰囲気が出た。
			対面およびオンラインによる異文化交流や海外留学等を通して、生徒の国際感覚および異文化理解力を涵養できたか。	国際交流委員会	7割以上の生徒および参加者が満足感を得られたか。(アンケート実施)	B	今年度は留学生とのスポーツ交流や大学講義の聴講、短期間の授業内交流や長期の留学生受け入れなどを通して生徒の国際感覚を養うことができた。また、昨年度実施したイギリス語学研修を継続実施するため、例年以上に支援係と密に連携しながら準備を進めている。
			学校行事にて、保護者・地域の方との交流を図ることができたか。	教務係(P T A担当)	各行事の参加状況が前年度を上回ったか。	B	競歩大会の豚汁作り等に必要な野菜の食材は去年より多くご家庭から寄付いただき、文化祭の出店時の利益も去年より増。PTA研修旅行の参加者数が昨年より減ってしまった。
管理運営	安全・安心な学校づくり		生徒がいじめや体罰を受けることなく、安全で安心な学校生活を送ることができたか。	コンプライアンス委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止のための指針に基づき、教職員が研修を深め、さまざまな機会を通して生徒への啓発指導を行い、いじめ事案の発生を予防することができたか。 ・非遵行為に係る職員研修を通じて、体罰事案の発生を予防することができたか。 ・アンケート調査等を通じて、生徒の現況を適切に把握することができたか。 ・いじめ・体罰事案が生じた場合に適切な対応をとることができたか。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・9月に職員研修を行い、非遵行為防止について再認識できた。 ・学校生活アンケートをを生徒に実施し、いじめ等の早期発見・未然防止に努めた。
			校内研修を定期的に行い、職員全体の意思疎通と共通認識を醸成するように努めたか。	教務係	生徒指導(人権教育)はもとより、法令・社会規範・倫理を遵守するよう2回以上の研修を実施することができたか。	B	生成AIに関する研修のほか、生徒指導やコンプライアンスに関する研修を2回実施することができた。
	校内研修		公開授業をお互いの授業を研究する機会と捉えて、積極的に研修できたか。	教務係	授業力向上のために、各職員が年間3回以上の授業見学をできたか。	B	年間3回の授業員学期間を設けたほか、3名の初任者による研究授業も行われた。積極的に参観する職員が多かった。